



令和3年度学力向上推進プロジェクト事業

【授業力ブラッシュアップ研修】

阿見町立あさひ小学校:国語

研究主題を「主体的・対話的で深い学びを実現する国語科学習指導の在り方～文学的文章における、学習課題及び学習過程の工夫を通して～」と設定し、研究を深めました。1年目の実践をベースに2年目の授業づくりを進めましたが、研究を進めるほど課題も生まれ、試行錯誤しながらの研究となりました。

7月7日には、第1回授業発表会を行い、第3学年「ゆうすげ村の小さな旅館」、第6学年「海のいのち」の授業を公開しました。多くの参加者を集めての公開はできませんでした。大妻女子大学の樺山敏郎准教授から「教えたことを学びたいことに変えること」「単元全体で授業づくりを考えること」などの貴重な助言をいただきました。

第1回での講師指導や授業反省を踏まえ、第2回の授業発表会に向けて指導案検討などの準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、授業公開は中止としました。「国語科授業づくり研修会」において、研究の取組について発表するとともに、第3回の学力向上研修会等を活用して、研究の成果を広く伝えていきます。



【1人1台端末を活用した学びのイノベーション推進プロジェクト】

石岡市立南小学校:社会

11月26日に、第5学年社会科の授業を公開しました。単元の前半に教師が自作したデジタルドリルを活用して知識・技能を習得した児童が、単元の後半に作成したプレゼンテーション資料について、グループで意見を交わして修正するという場面を公開しました。デジタルドリルを活用して効率的に知識・技能を習得することで、単元の後半に思考、表現活動の時間を十分に確保するという、「単元の授業デザイン」が提案されました。個別最適な学びと協働的な学びを実現する1人1台端末を活用した学びの効果が、児童一人一人の姿を通して表れた授業となりました。



小中学校における遠隔教育実証研究事業

【優れた指導力をもつ教員による遠隔授業】

稲敷市では、令和2年度から、優れた指導力をもつ教員が、複数の学校に遠隔で授業を配信し、児童生徒の学力向上を図る実証研究に取り組んでいます。

稲敷市〔配信校:桜川小学校、受信校:あずま北小学校、あずま西小学校〕:算数



昨年度の実践校が3月で閉校し、今年4月には稲敷市立桜川小学校として開校しました。稲敷市としては2年目の取組ですが、配信校の授業者や、授業を受ける児童にとっては初めての実践となります。環境の整備や端末の使い方などから研究がスタートしましたが、昨年度の経験者から1年目のノウハウを引き継ぐことで、2年目としてふさわしい研究実践となりました。



稲敷市〔配信校：桜川中学校、受信校：江戸崎中学校、新利根中学校、東中学校〕：国語



昨年度の研究を踏まえ、今年度はさらに発展的な取組を行いました。昨年度は、配信校からそれぞれの受信校1校をつなぐ1対1の遠隔授業でしたが、今年度は、受信校3校を一斉につないだ合同遠隔授業に挑戦しました。新たな取組により、受信校の生徒同士の意見交換ができるようになり、様々な意見に触れながら自分の考えを深めていくことができる授業となりました。トライアンドエラーを重ねながら、スモールステップによる授業づくりを今年度も進めています。

【高度な専門性をもつ人材による遠隔授業】

つくばみらい市〔配信校：伊奈東小学校、受信校：伊奈東中学校〕：外国語（英語）

高度な専門性をもつ人材（スペシャリスト）による質の高い外国語（英語）教育により、児童生徒の学力向上を図ることを目的とした実証研究も、3年目となります。今年度も、昨年度に引き続き、伊奈東小学校のスペシャリストが、伊奈東中学校のアドバンスクラスに遠隔で授業を行い、小学校の学びを活かした小中連携の授業実践を推進しました。



いばらきサイエンスキッズ育成事業

【「小学校における理科専科教員による授業公開」に係るモデル校公開授業研究会】

龍ヶ崎市立龍ヶ崎西小学校：理科

12月14日に、理科専科教員による第5学年理科「ふりこの動き」の授業を公開しました。龍ヶ崎西小学校では、「科学的思考力・判断力・表現力を伸ばすための考察指導の在り方」という研究テーマの下、日頃から自分のことばで考察を書く活動を重視した理科授業を実践しています。発表会当日は、前時までに整理された「ふりこの実験」で得たデータをもとに、ふりこの運動の規則性について、ペアやグループでの意見交換が行われ、まさに子供たちの「協働的な学び」が展開されました。また、授業参観及び研究協議は、参集者とオンライン参加者に分かれて、ハイブリット型で行われ、参加者の先生方からたくさんの意見が交わされました。



今後の理科授業の改善につながる、有意義なモデル校公開授業研究会となりました。

グローバル・サポート事業

【筑波大学と連携したオンライン学習による日本語初期指導カリキュラム開発・検証に関する研究】

稲敷市立江戸崎中学校、阿見町立朝日中学校、阿見町立竹来中学校：日本語初期指導

県グローバル・サポート事業の一環として、筑波大学と連携し、「オンライン学習による日本語初期指導カリキュラム開発・検証に関する研究」を昨年度から実施しています。今年度は、事業拡充により対象校が2校加わり、上記3中学校に在籍する日本語指導が必要な生徒が学習支援を受けています。

支援にあたっては、日本語コーディネーターが、アセスメントの結果から個別の支援計画を作成し、学生（日本語サポーター）が、それぞれの生徒に週3回取り出し型の個別指導をしています。生徒は、実際の場面で日本語を使ってコミュニケーションができるようになることを目指し、意欲的に日本語学習に取り組んでいます。



研究に取り組んでいただいた学校の皆様、実践していただいた先生方、ありがとうございました